

職業能力開発総合大学校図書館シリーズ企画 第3回
日本人の科学的思考力、科学的な知識、創造力の高さを多摩地方の文化財を通じて知る

崖（ハケ）と湧水が創った武蔵野の文化

― 鈴木遺跡、うどん、そして湧水発電 ―

令和6年6月24日 落合川源流(南沢湧水群)にて撮影

7/28^日

▼
9/13^金

- [会場] 〒187-0035 東京都小平市小川西町2-32-1
職業能力開発総合大学校 2号館 6階
- [開催期間] 令和6年7月28日(日)～9月13日(金) 10:00-16:00
※7/28^日・8/4^日を除く土日祝日は休館
- [アクセス] ●西武拝島線・西武国分寺線
「小川」駅西口から徒歩5分
●JR武蔵野線
「新小平」駅から徒歩25分

[問合せ先] 職業能力開発総合大学校 図書館
TEL:042-346-7229
<https://www.uitec.jeed.go.jp/>



職業能力開発総合大学校
POLYTECHNIC UNIVERSITY (PTU)

第3回 テーマ企画展について

【疑問】 私たちは、なぜ環境を保全・維持しなければならないのか？

調べてみると

- ① 人は、日々の生活を精神的、物質的に豊かにするため「文化」を育んできた。
- ② 人が生活の中で紡いできた「文化」は環境に依存するといわれる。
∴「文化は人の日々の生活の営みと環境のシンクロ(調和)により紡がれるもの」
- ③ 文化は日々の生活を精神的・物質的に豊かにし、「環境に依存」して育まれる。
そのため、本質的に「文化」は、そのままでは環境を破壊する方向に作用するといわれる。
- ④ では、私たちが日々学び、生活する武蔵野の環境にはどのような特徴があるのか。
そして、どのような文化が紡がれてきたのか。

具体的に考察してみたら、【疑問】に答えられるのでは…？

そこで…

令和6年度テーマ企画展

「崖(ハケ)と湧水が創った武蔵野の文化 － 鈴木遺跡、うどん、そして湧水発電 －

- **題材1** 鈴木遺跡 (小平市内にある3万年前の旧石器時代の遺跡)
- **題材2** 武蔵野うどん (北多摩一帯で育まれた「うどん文化」)
- **題材3** 湧水発電所 (1937年(昭和12年)に完成した自由学園の水力発電所)

- 「武蔵野の文化」(上記3点)に触れ、その特徴を理解する
- 環境を維持・保全する意義を理解するとともに、SDGsの重要性を理解する

Point 1

「武蔵野」は、多摩川の扇状地を基盤とし、大きな川がない。多摩川の伏流水と、それが湧き出る崖(ハケ)が特徴である。

Point 2

崖(ハケ)と湧水があったから、「鈴木遺跡」・「武蔵野うどん」・「湧水発電所」は、地域文化として育まれた。

Point 3

地域文化(アイデンティティ)を維持するためには、「環境」を維持・保全しなければならない。地球人であり続けるためにも…

【展示物の紹介】

- 1 小平市中央図書館所蔵図書
・見えてきた鈴木遺跡のすがた ほか
・武蔵野第82巻第1号(2006)
- 2 Webサイト情報
・NPO東久留米の水と景観を守る会ブログ
・「生活大学研究」(J-stage)
・国分寺崖線に関する資料
- 3 展示パネル

多くの皆さまに地域とその歴史を知ることの楽しさ、興味・関心を持つことの喜びを体感していただきたいと思います。ぜひ、職業大図書館にお出かけください。皆さまのお越しをお待ちしています。